

「中津川小学校の伝統芸能伝承活動の取組」

1 学校名 さつま町立中津川小学校

2 学年・人数 3～6年 24人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

9月6日～29日（14日間） 17：30～18：30 中津川小学校校庭

(2) 発表の日時・場所

令和4年9月 中津川小学校・校区合同運動会

令和4年10月 大石神社秋の大祭

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称 俵踊り（たわらおどり）

(2) 由来

「俵踊り」は、昔社寺等の落成式や祭典には催し物によく相撲がなされた際に、寄進されたものを土俵上に積んで見物客に披露し謝礼の意を表した。

当時の寄進は大部分が米であったので、化粧まわしを締めた関取が相撲甚句を唄いながら円陣形をとって踊り、土俵祭りがすむと飾ってあった米俵をリレー式に外に運び出した。この米俵を運ぶ格好を舞踊化したのが、この俵踊りと言われている。

(3) 構成等

衣装は、かすりの着物にもんぺ姿で俵を持って踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

俵踊りは、もともとは中津川校区の北方町に伝わる北方町俵踊りとして、継承されていた。昭和44年に町無形文化財に指定され、校区の伝統芸能の継承を考え、中津川小学校に文化財少年団として保存会を立ち上げて活動している。

校区合同の運動会、大石神社秋の大祭での奉納が毎年発表の場となっている。現在小学生3～6年生が24人で活動しているが、踊りの練習は、保存会の森重利夫氏をはじめとする北方町俵踊りのお師匠様を中心に踊りの指導していただいている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら俵踊りを継承していくために、学校に「中津川文化財少年団」を発足し、俵踊り保存会として事務局を置いている。今後も継続して地域と連携して俵踊りを伝承していける態勢を整えている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【放課後練習】



【運動会での披露】



【R 3 北南橋 開通セレモニー】



【大石神社秋の大祭 奉納踊り】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【3年生】

わたしは、初めて俵踊りを踊りました。最初は、全然分からなかったけれど、おししょうさんたちにいろいろなことを教わってだんだん上手になりました。上手になってうれしかったです。来年は、3年生に教えたいです。本番はとてもきんちょうしたけど、教わったことを生かしてがんばりたいです。

【4年生】

今年も俵踊りやりました。後ろの人に俵を投げるのが難しかったけれど、おししょうさんたちが教えてくれたので、うまく投げられるようになりました。わたしにとって、俵踊りは、ここにしかない踊りだと思います。これからもずっと残して欲しいです。

【5年生】

私のおばあちゃんは、俵踊りのお師匠様です。だから、俵踊りが始まる前から練習します。俵踊りは、6番まであるので、いっぱい覚えなければなりません。だけど、曲が始まると思い出してきて、だんだん踊れるようになってきました。本番でもがんばりたいです。

【6年生】

私たちの中津川では、小学校3年生から6年生までが俵踊りをします。毎年金吾様踊りがあって、私たちはその中の俵踊りをしています。私はもう卒業するけど、残される在校生にもしっかりと受け継いで欲しいです。

【教職員】

2学期が始まると、すぐに俵踊りの練習が始まります。北方町の踊りのお師匠様や保護者、地域の方が指導に当たってくださいます。中には、幼少の頃、中津川小で踊っていたお父さんが、今度は自分の子供に熱心に教える姿も見られました。運動会では、多くの地域の方が大変喜んでくださいます。この俵踊りが、家族や地域の絆を深める役割を担っているのだと感じました。伝承芸能である俵踊りを今後も守り続けていって欲しいと思います。

【保存会・指導者から】

中津川に住む子供たちが「俵踊り」を継承してくれるのがうれしいです。大人になったら、自分たちの子供たちにも教えようとする気持ちをもってくれるとありがたいです。